道の邊りの萩や野菊はたはゝに咲き亂れて並松の間からはちら〳〵と沖行く白帆、其上に朝燒の雲のたゝずまひも面白く、汀には錨卸せし二三の漁船、

噫好畫題、

靜遊

恍惚として五歩十歩、漸く我にかへつて、

まゝよ、今忍ぶ屈辱は後大を爲す基だ、

名譽も性命も擲つて迄報ひむと思ひし恨も、天然の好景に、湧き出づる繪心の爲め、今や消滅し盡して陶然と醉へるが如くである、顧れば里の炊煙は麓を横に靉き、紅葉せる項には淡き月が殘つてゐる。

文房堂に與ふ

上野白眼生

近時水彩畫の流行は延て水彩畫用具の需用となり、東廛西肆相競て顧客を呼ふの有樣なるも、神田神保町文房堂の如きは蓋し此業の老舗として巨細百備し製品又堅實の稱あれども、頃者新築移轉して新たに店舗を開くや少壯の店員が然も傲慢不遜聳眉曠歩の態度を以て客に接するは大に我輩の意を得さる所のものたり、敢て諂諛の巧言令色を欣ぶものに非さるも見やう見眞似に十有二三の木ッ葉丁稚に至るまで之に似たる惡風に感染しつゝあるは決して同店の爲めに欣ぶべきにあらず、然も自己が老舗を誇り賣品の饒多を鼻にかけ店頭裝飾の珍奇を衒ひ得て尊大の風を示さんが爲めに如此態度をなすが如きは決して識者の行爲にあらず亦怜悧なる改善進暢の商業法にあらさるなり、吾輩は如此輕佻の待遇に接する如に彼等が虛榮の憐むべくして心事の懦陋は寧ろ噴飯に與へすべきも、未だ深く同店を知らざる者や淑良なる婦女子の如きは如此待遇に遇ふ如にその跳梁の風を訴へざる稀なり、蓋し永遠の事業は最も持重切實なるを要す、文房堂なるもの今日の小成功に安ずるなく此の惡風を一掃して然も東都模範的の一商賈として益々此業の發達を期さんとはせずや同店を愛するの餘り敢て痛棒を加へて一鍼とす、

樹木の寫生

草水生

先頃ある川ばたの崖の上の綠の樹の間から出てゐる農家を寫生しやうとして、げつそり力が脫ける位失敗した、家は兎も角として、木の葉のこんもりと繁つた具合がどうもうまく行かぬ、これは樹や草など個々の研究をやらぬからだ、と考へた、今朝はまた例の河畔に出かけた目的は向岸の槻の木である、暑い七月の日の光は斜に後から射るので、日向と影とは至極明瞭して崖の下を流れてゐる川の水を染めてゐる、そして葉の所々からは晴々した空が透いて見え、前方は半分頃までしか葉が垂れてをらぬ、なんだか庇でもかけたやうで暗い蔭の中から數本に分れた堅さうな幹が仄かに見える、ここから右に二間許離れて古い茅屋の頭が出てる、——全體の調子が滴るばかり强くて、知らず知らず壯快の感がむら〳〵と起る、まづ空から始めて一通り塗る、それが干るまで川畔の散歩、此方岸のさざら波に山